

プロフィール

氏名: シリポーン・コングスリ

国籍: タイ

年齢: 1990年5月生まれ(おうし座)26歳

職業: ホテル勤務

役職: 接客係

その他: 日本語を勉強している

家族構成: 父、母、祖母、妹の5人暮らし

居住地: バンコク市の郊外に住んでいる

休日の過ごし方: 友達と買い物やスイーツめぐり

長期休暇: LCCを使って日本や香港に遊びに行く

趣味: ファッション、アニメ



生活スタイル

- 通勤時間は30分～60分、主にバイクを利用するが、最近は大渋滞が激しいので、メトロを利用して通勤している。
- 日本語を勉強したおかげで、今の職業に就くことが出来た。昔は団体客が多かったが、最近では個人客が増え、同じ世代の女の子にバンコクのおすすめスポットや流行のスイーツ、古式マッサージ店などを紹介している。仲良くなった日本人とはLINEで情報交換している。
- 最近では妹も日本へ行きたがってるので、今年の冬は家族で北海道旅行の計画を立てている。祖母だけを留守番させるわけにいかないの、母が残ることになりそうで、少しさびしい。
- 好きな言葉は、「感謝」

日本への関心

日本の番組はテレビ放映されており、子供のころから日本語で番組を見ることが多かった。マンガやアニメを原語でわかるようになりたいからと、学校の第2外国語は日本語を学んだ。その語学力を生かして、休みの日には友人と日本へ遊びに行く。最近ではLCCで格安に行ける沖縄がお気に入り。買い物やきれいな海があり、気候もタイに似て過ごしやすい。沖縄以外では、最近テレビで話題になっている温泉にも、挑戦したいと思っている。

情報源と接触回数

仕事柄、業務時間中に情報検索することが多い。日本の情報は、自身で検索するほかに、日本から来たお客様から、直に聞くことも多い。その他友達と情報交換して面白い情報は共有している。

個人的には日本の温泉とご当地スイーツの情報収集にはまっていて、日本の「女子旅」にあこがれている。

日本で実現したいこと

沖縄のアウトレットで可愛い服を買い、美容院へ行って、桐谷美鈴のような髪型にしてもらおう計画を友達と立てている。

九州での温泉めぐりもしてみたい。車の免許がないので、列車の旅を考えている。

*経験ストーリー展開案③ 山陰の美 SUN IN BEAUTY

<メインテーマ>

日本に残された山陰の美を訪ね、心も身体も美しくなる

<ねらい>

1. 滞在中のプログラムをすべて美に例えて紹介

行程中に訪ねる観光資源をさまざまな角度で美に例え紹介する。美にまつわるエピソードや特産品なども紹介する。

2. 山陰でなければ味わえない美を提案

食や特産品の高付加価値化を行い、観光プロモーションを進めながら、新たな観光客獲得にむけた施策を実施する。

3. 1000年の歴史に裏付けされていることのアピール

出雲の国の1000年以上前からある特産品(めのう細工、たたら製鉄等)や名物(ブリ、ワカメ等)を探り、歴史のお墨付きを貰える商品や資源を紹介する。

<コース設定>

ペルソナが訪れやすい設定にするために、日本最員のタイ人が訪問しやすいコース設定とし、広島からの来訪し、大阪に戻るプランとする。
また、比較的滞在時間の短いアジア向けに、広島・大阪とセットで4・5日間のプランとする

○基本日程(3日間)

1日目 : 広島==(高速バス)====松江====(循環バス)====松江城====

====堀川遊覧船=====武家屋敷散策====宍道湖=====玉造温泉

2日目 : 玉造温泉=====出雲大社=====出雲市====足立美術館=====

==とっとり花回廊=====大 山

3日目 : 大 山==(鬼太郎列車)==境港(水木しげるロード・市場)==

==米子===== (高速バス) ==大阪

宿泊地はそれぞれのエリアで温泉にも変更可能
松江市内⇒松江温泉・玉造温泉
大 山⇒皆生温泉・米子市内

*経験ストーリー展開案③ 山陰の美 SUN IN BEAUTY

○コース設定(案)：シリポーンが体感 山陰の美ストーリープログラム

2016年11月某日

・広島市内

現在でも数多くの外国人が訪れる観光地であり、中海・宍道湖・大山圏域に来訪の可能性が高い外国人が存在する可能性が高いため、広島市内の観光スポットでの情報発信を強化している。(駅・市内観光案内所、バスセンター、市内ホテルコンシェルジュ等)



・広島駅・バスセンター

インスタグラムや日本好きブロガーのサイトに紹介されている「海に浮かぶ赤いTORII」をぜひ見てみたいタイ人の女の子シリポーンは、友達のキッティマと一緒に宮島を訪れるために広島駅で観光案内所を訪れていた。そこで、「SUN IN BEAUTY」の紹介パンフレットを見つけ、バスでわずか3時間の距離に、日本で有名な温泉があることを知った。あいにく宮島は温泉ではないので、どこか帰りに温泉があればと考えていたところにNICEな情報を見つけることが出来た。友人のキッティマは今ひとつ乗り気でないものの、温泉と日本が大好きなシリポーンは、ここでいかなければまた来ることは難しいと、翌日松江に向かうことを強引に決めてしまった。キッティマは、いつものこととあきらめ顔だが、シリポーンがおすすめするところはいつも楽しいので、今回も一緒に行くことを決めた。窓口で松江行のバスチケットを購入、乗り場を教えてもらい、バスセンター近くの繁華街のホテルを予約した後、路面電車に乗って宮島へ向かった。



・広島バスセンター⇒松江駅

持参したガイドブック「ロンリープラネット」では、玉造温泉は美肌の湯と書かれていた。日本には温泉が沢山あるが、美肌というのが素晴らしい。また、同じページに紹介されていた宍道湖の夕陽の写真がとてもきれいなので、今日は絶対天気であることを日本の神様をお願いしようと思った。松江駅から市内を巡るバスに乗り換えることにする。松江駅までは広島市内からおおよそ3時間20分、タイではいつも早起きなので朝一番のバスで松江に向かう。松江駅には少し遅れて10時30分に到着した。日本の交通機関は数分遅れても乗務員がお詫びをする。そんな丁寧な対応に感心しながら、市内循環バスに乗り換えるため駅の観光案内所を目指した。



・松江駅⇒松江市内

「SUN IN BEAUTY」には、温泉の他、食事や景色についても紹介されている。駅から循環場バスに乗ると、簡単に市内を巡ることが出来る。途中では松江城の街並みを観ながら散策もできるので早速バスで市内に移動することに。バンコクのチャオプラヤ川とは違って小さな川が街中を流れていると思ったら、これは城を守るために水を流して「堀」というらしい。バンコクの水路みたいなもので、なんとなく親近感がわいてきた。ボートに乗って城を観ながら案内してもらえるとるので乗ってみることにする。案内は中国語や韓国語はあるのにタイ語の案内がなくて残念。でも船のドライバー MORIWAKIさんがとても親切で、何を言っているか、あまりわからないけど、一生懸命説明してくれる姿に感動した。日本の人々はなんでこんなにやさしいのだろう。日本語で「ありがとう」をこの辺では「DANDAN」というらしい。一杯親切になれたので、船を降りるときに行ってみたら、笑顔で手を振ってくれた。

今日の宿泊は美肌の湯で有名な「玉造温泉」へ。温泉を楽しむ前に天気が良いので宍道湖で夕陽待ち。ネットで見た美しい夕陽を直接見るために、日没30分前に湖岸の休屋に陣取る。

湖では水鳥と漁師の姿が少しずつ赤く染まってきている。程なくこの上ないオレンジの景色が目の前に広がった。バンコクで見る夕陽とは一味違った日本の美しい風景を確かめることが出来た。

<玉造温泉泊>

*経験ストーリー展開案③ 山陰の美 SUN IN BEAUTY

◎山陰の美を追求する旅

○松江市内スポット

- ・松江城（国宝に指定された美しい日本の名城で、現存する12天守のひとつ）
- ・堀川遊覧船（美しい水辺を楽しむ松江観光のハイライト）
- ・武家屋敷（質素儉約と武士らしさを兼ね備えた日本の武家の美を感じる）
- ・宍道湖（夕陽の美しさは全国有数）
- ・玉造温泉（古事記にも記された美肌の湯）

2016年11月某日

・玉造温泉⇒出雲大社

今日は日本の神社の中でも、縁結びで有名な出雲大社に向かい、身も心も美しくなる予定。昨日見た美しい夕陽を思い出しながら、宍道湖畔を出雲方面へ向かう。少しだけ街らしい雰囲気になって程なく、大きな参道が見えてくる。ここからが出雲大社、気を引き締めて境内に進んでいく。出雲大社前駅近くには観光案内所があったので、帰りに立ち寄って次の場所までのルートを確認しようと、キッティマと確認する。これで彼女の心配事もクリアになった。

大きな社で参拝した後は、さっき見つけた観光案内所へ。とても親切に案内をしてくれた。これで午後迷わずに移動できそうだ。松江までは電車で向かうことが出来るそうなので、ここから乗り込むことにする。日本にもこんなのにのんびりしたところがあるのかと、改めて感動。自然が美しいのにいろんな新しいものもある国日本は、タイとは違った刺激を受ける。



・出雲大社⇒足立美術館

朝来た道を宍道湖の反対側に眺めながら、電車はコトコトと松江に向かっている。およそ1時間の電車の旅は、気分転換にぴったりだ。ここからは再びバスと電車を乗り継いで足立美術館を目指す。行き方はさっき出雲の案内所で聞いたので完璧だ。出雲の案内所のお姉さん「DANDAN」。JR安来駅に降りると、シャトルバスが待っている。これに乗れば終点が足立美術館だ。日本の庭No1の実力をぜひこの目で見たいと思う。写真で見ても素晴らしいのに、実際に見たらどれほど美しいのだろうか。楽しみが増していく。



・足立美術館⇒とっとり花回廊

美しい庭を愛でた後は、美しい花を探しに移動することに。県を跨いで鳥取県へ。1年中花が咲き誇るとっとり花回廊は、「ゆり」が有名なフラワーパークらしい。タイもランの花はあちらこちらに咲いているが、日本のものとは様相が少し違う気がする。そんな花や植物の違いを見極めるのも楽しみの一つ。早く行かないと日が暮れてしまうので、少し急ぎ目に移動する。



・とっとり花回廊⇒大山

鳥取・島根を代表する観光地には、自然にまつわるものが多い。中でも今日は西日本有数の標高で日本百名山にも選ばれた名峰大山の麓に宿泊する予定。日本は海と山の距離が近い気がする。海辺とは違った静かな山の中で、虫の声を聞きながらゆっくり過ごしたい。明日の朝には、目の前に勇壮な大山の姿を眺めることが出来そうである。明日も晴れてくれることを祈りたい。

<大山泊>

*経験ストーリー展開案③ 山陰の美 SUN IN BEAUTY

・大山⇒境港

眺めのよい朝を過ごし、今日は再び海へ向かうことにする。山陰の魅力は何と言っても海の幸。解禁になったばかりのカニを食べに、境港を目指す。バスで米子駅に出て、アニメファンが喜ぶ鬼太郎列車で境港へ。駅を降りると、妖怪のオブジェが迎えてくれる。今日の目的は美食なので先を急ぎ、お目当ての海鮮市場へ到着。茹でたてのカニをその場で食べようと思ったが、食べ方がよくわからないので、お店で注文することにする。店員さんが丁寧に食べ方を教えてくれた。キッティマにお願いして、カニを食べている様子を動画に収めてもらった。これでカニチャレンジの様子を友達にシェアすることが出来る。タイでは味わえない日本の美食に舌鼓を打ちながら、お腹一杯になるまでカニを食べてしまった。



・境港⇒米子

再び元来たルートで米子へ移動する。米子からは大阪までJRを乗り継いでいくこともできるが、高速バスが何本も出ているので、乗換がなくて料金も安いバスを選択。自然と食を満喫したSUN INの美とはここでお別れ。一路大阪に移動する。大阪では山陰にない賑やかさとショッピングを楽しみたい。

<スポットの解説> 観光資源を美の観点で説明を加えていく

◎山陰の美を追求する旅

○松江市内

・スポット1 松江城

全国に現存する12天守の一つで、天守の平面規模では2番目、高さでは3番目、古さでは5番目である(国宝・重要文化財建造物目録／文化庁編)。昭和10年に国宝に指定され、昭和25年には文化財保護法の制定により重要文化財と改称されたが、平成27年7月8日、国宝に再指定された。

明治の初め、全国の城はほとんど取り壊されたが、松江城天守は地元の豪農勝部本右衛門、旧松江藩士高城権八ら有志の奔走によって山陰で唯一保存され、松江のシンボルとして親しまれている。

・スポット2 堀川遊覧船

松江城を取り囲む堀川は、松江城築城の時につくられた。船は堀川を約50分かけてゆっくりと遊覧する。船上から眺める松江の街並みはどこか懐かしく、水辺を彩る草花や水鳥が四季を感じさせてくれる。16もの橋をくぐり抜けるときは橋の高さにあわせて屋根が下げられ、乗り合わせた人たちとの語りを一層楽しいものにさせる。冬の風物詩であるコタツ船も好評だ。

・スポット3 武家屋敷

塩見縄手(しおみなわて)には、かつて松江藩二百石から六百石取りの中老格の藩士の屋敷が並んでいた。この武家屋敷も、約275年前の松江藩中級藩士が屋敷替えによって入れ替り住んだところである。刀箆笥やお歯黒道具をはじめ当時の家具調度品、生活用具などを展示している。玄関から座敷まわり、主人居間のあたりは立派な造りになっているのに対し、私生活部分は質素にするなど、公私のけじめをつけていた武家の暮らしぶりが偲ばれる。

・スポット4 宍道湖

全国で7番目に大きい宍道湖は、真水と海水の混ざりあった汽水湖である。特に刻々と表情を変える夕景の美しさは絶景で、水都松江の象徴になっている。夕日観賞には白潟公園から国道9号線にかけての湖岸がおすすめである。

・スポット5 玉造温泉

女性に優しい美肌の泉質であることから「姫神の湯」ともよばれる、島根県を代表する名湯である。古代には街の東側にある花仙山から良質の青めのうが採れたため、まがたま作りが盛んであった。奈良時代に編纂された「出雲国風土記」にも、「一度入浴すれば肌が若返るようになり、二度入浴すればどんな病も治してしまう。その効きめがなかったことはないので、人々は神の湯と呼んでいる」と紹介されている。

・スポット6 とっとり花回廊

日本最大級のフラワーパーク「とっとり花回廊」は、鳥取県が誇る秀峰大山を望む景観の中、四季折々の花を楽しむことができる花の楽園。総面積50ヘクタールのメインフラワーは「ゆり」で、年間100品種以上のゆりを1年中楽しむことができる。6～9月の土・日・祝・お盆等、そして12月のクリスマスには、照明デザイナー石井幹子氏プロデュースの「ムーンライトフラワーガーデン」を開催している。

・スポット7 大山

日本で3番目の国立公園となった大山は、「日本名峰ランキング」でベスト3に選ばれるほどその美しい自然のすがたが人々の心をとらえ続けている。大山の主峰・弥山(みせん)は標高1,709mで、中国地方最高峰。明治時代まで山岳仏教の霊場として入山が禁止されていた大山には、今も手つかずの大自然が残っている。例年、6月第1日曜に、大山夏山開き祭が行われる。

<スポットの解説> 観光資源を美の観点で説明を加えていく

◎山陰の美を追求する旅

○出雲市内

・スポット1 出雲大社

縁結びの神・福の神として名高い「出雲大社」は、日本最古の歴史書といわれる「古事記」にその創建が記されているほどの古社で、明治時代初期まで杵築大社と呼ばれていた。

主祭神は大国様として馴染みの深い「大国主大神(おおくにぬしのおおかみ)」で、「古事記」に記される国譲り神話には、大国主大神が高天原の天照大神(あまてらすおおみかみ)に国を譲り、その時に造営された天日隅宮(あまのひすみのみや)が出雲大社の始まりといわれている。

○安来市内

・スポット1 足立美術館

足立美術館の庭園は、米国の日本庭園専門誌「ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデニング」の日本庭園ランキングで、かの有名な桂離宮を抑え、連続第1位に輝き名実ともに世界一の日本庭園として名を轟かせている。「枯山水庭」、「白砂青松庭」、「苔庭」、「池庭」と足を進めるたび広がる閑雅な風情は、館内の日本画の作品とあいまって訪れる方の心を静かに癒してくれる。

○米子市内

・スポット1 皆生温泉

「皆生」という地名は、天正年間(1573～1592)にこの地にあった「海池」と呼ばれる大きな池に由来する。その「海池」が「皆生」になったのは慶応3年(1867)のこと。温泉が発見されたのは明治初めの1900年。その昔、皆生海岸はイワシやアジの好漁場として、とても漁業が盛んであったこともあり、最初に発見したのも、浜辺で漁をしていた地元の漁師で、泡が吹き出ているのを偶然にも見つけたそうである。そこから1世紀以上、海中より湧き出す湯は、今では山陰屈指の名湯として語り継がれている。

・スポット2 鬼太郎列車

境港市と米子市を結んで走るJR境線は、2000年8月に登場した「鬼太郎列車」に加え、2005年11月には「新・鬼太郎列車」、2006年2月には「ねずみ男列車」、さらには2006年7月に「ねこ娘列車」が運転するなど、その種類も徐々に増え、現在は4タイプの列車がローテーションで運行中。愛らしい鬼太郎ファミリーのキャラクターペイントされた列車が境線の旅を楽しませてくれる。また、4種類の「鬼太郎列車」は、外装だけでなく、車内にもイラストが描かれ、子ども達を中心に人気である。

○境港市内

・スポット1 水木しげるロード

JR境港駅前から約800mの水木しげるロードは「ゲゲゲの鬼太郎」などの著作で知られる水木しげる氏の創作した妖怪キャラクターや日本各地で言い伝えられている妖怪のロンズ像153体が立ち並んでいる。好きな妖怪と写真を撮るもよし、気になる妖怪に触れて効能を願うのもよし。また、同ロード沿いには、妖怪グッズやおみやげの店、妖怪神社、妖怪ポストなど、さまざまに姿を変えた妖怪アイテムが立ち並んでいる。

・スポット2 境港おさかな市場

山陰名物の松葉ガニをはじめ日本海の海の幸ならなんでも揃う境港は、国内でも有数の漁獲量を誇る漁港。四季を通じて様々な魚種の魚が水揚げされる。市内に3カ所あるお魚の直売施設には、新鮮な魚介類がずらりと並び、年間を通じてたくさんの来場者でにぎわっている。

<情報発信>

日本でできること、日本でしかできないことを瞬時に表現

日本ならではの、山陰ならではのを紹介し、なるべく積極的に山陰の美を強調する。その理由が実は山陰だけの特別な価値を持つ資源であることを丁寧に説明、工夫することが重要である。